

構内専用車両運用状況及び車両整備について

2017年5月29日
東京電力ホールディングス株式会社

構内専用車両の整備状況および体制について

1. 構内専用車両の整備状況について

車両内訳は2017.5.12現在

項目	小型車	大型車	計
①構内専用車両登録台数	737	273	1010
②整備不能等による不稼動車両台数 (点検対象外)	107	74	181
(a) 構内点検整備対象台数 (①-②)	630	199	829
③構内整備工場による点検整備完了台数	347	56	403
④企業さま自前整備士による点検整備完了台数	73	19	92
(b) 整備完了台数 (③+④)	420	75	495
⑤未点検整備台数 (a-b)	210	124	334
(c) 未点検整備車両台数 (⑤)	210	124	334
(d) 点検整備率 (b/a)	67%	38%	60%

2. 整備体制について

H29/4から未点検整備車両の早期削減のため下記の通り整備体制の強化を図った。

◇ 6名/日 (工場長1名・副工場長1名・整備士4名) <整備士3名→4名に増員>

◇ 稼働日数の増 4日 → 5日

構内専用車両の現状と課題について

3. 整備工場の現状と課題について

未点検整備車両については体制の強化等で2018年度9月末日途で全台数の点検整備完了できるよう鋭意努力しているところですが、下記のとおり、点検整備に支障が出る課題等もあり、効率的な整備運用について検討実施中。また不稼働車の処分についても検討を開始した。

- 4月19日（水）の強風の被害で、整備工場のシャッター破損。
＜大型車レーンが1レーンが使用不可、車が出せない状況＞6月上旬修理完了予定
- 大型車両の点検整備の短縮化の検討(取引先車両)
＜大型車両の点検は、取替部品が高額で点検実施の判断、予算確保に時間を要しており、**整備工場に車両が滞留して非効率**＞
 - 【現状】車両持込→分解点検→見積→**点検の有無判断、予算確保**→部品調達→点検整備→車両返却
 - 【今後】目視点検→概算見積、**車両返却**→点検の有無判断、予算確保→整備日程調整後、部品調達→車両持込→点検整備→車両返却
車両を一時返却しているため、整備工場に効率よく車両が持ち込まれ、他の車両の点検整備が実施できるようカイゼンを図った。
- 不稼働車についても処分方法の検討を開始した。
高線量車輛の解体設備使用等を検討

参考：構内専用建設用車両の整備状況について

▶構内専用建設用車両の整備状況については、下表のとおり

2017年5月12現在

会社	重機	種別	全台数	点検済台数	点検予定台数	点検内容
当社	自走式でない	クレーン	11	1	11	年次点検：構内に整備士を呼び重機ヤードや各現場にて法定に基づく点検整備を実施 1回/年 性能検査：構内に検査官を呼び重機ヤードや各現場にて検査 1回/2年
		バックホー、ブルドーザー等	95	7	95	構内に整備士を呼び重機ヤードや各現場にて法定に基づく点検整備を実施 1回/年
	自走式	ラフタークレーン、ユニック	19	9	19	構内に整備士を呼び重機ヤードや各現場にて法定に基づく点検整備を実施 1回/年